

消化器内科

科長 後藤 秀実（教授）

11E・12E

消化器癌の早期発見と豊富な診療実績が信頼を裏付ける

当科は消化管（食道、胃、小腸、大腸）、胆道・膵臓、肝臓疾患の診断・治療を積極的に行っています。

診療体制

外来は消化管、胆道・膵臓、肝臓の専門医が毎日診療を行っています。また、上部・下部内視鏡検査や腹部超音波検査などのスクリーニング検査も毎日施行しています。入院は専門医が主治医となって診療を行っています。

対象疾患

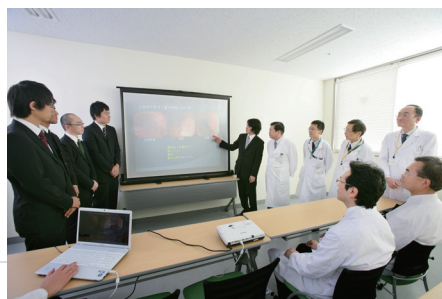
消化管（食道、胃、小腸、大腸）の良性疾患（逆流性食道炎、胃潰瘍、炎症性腸疾患など）や癌などの悪性疾患、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝臓癌、胆道・膵臓の良性疾患（胆管・胆嚢結石、急性・慢性膵炎）や癌などの悪性疾患。

得意分野

消化管癌の早期発見と内視鏡治療に積極的に取り組んでいます。小腸疾患に対するカプセル内視鏡や小腸内視鏡を用いての診断・治療、ウイルス性肝炎や肝臓癌の診断・治療、胆道・膵臓疾患に対する超音波や内視鏡を用いての診断・治療も得意としています。

診療実績

消化管の早期癌の内視鏡治療は250例/年以上施行しています。炎症性疾患は200例/年以上を診療しています。カプセル内視鏡は300例/年以上、小腸内視鏡も200例/年以上施行しています。インターフェロン療法も数十例/年以上の治療、胆道・膵臓癌も30例/年以上診断・治療しています。



専門外来

毎日、消化管は2名、肝臓は2名、胆道・膵臓は1名の専門医が外来を行っていますので、いつ受診されても専門医が診察します。



先進医療・研究

消化管の早期癌に対する診断・治療や小腸内視鏡によるポリープ切除やバルーン拡張術、膵癌に対する免疫療法を研究しています。

呼吸器内科

科長 長谷川 好規（教授）

11W

多様な症例に幅広く対応し、豊富な診療実績を誇る

肺癌、気管支喘息、肺炎、呼吸不全をはじめとする、肺および胸膜の疾患を幅広く診療しています。

診療体制

長谷川好規 教授（診療科長）以下常勤医（教員）10名、非常勤医員8名。外来診療は毎日3診察室（初診患者外来1枠と呼吸器専門外来2枠）。病床数42。呼吸器内視鏡（気管支鏡）検査週2回。

対象疾患

胸部悪性腫瘍（肺癌、胸膜中皮腫など）、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、びまん性肺疾患（間質性肺炎、サルコイドーシスなど）、肺感染症（肺炎、肺結核、肺真菌症など）、肺血栓塞栓症、慢性呼吸不全など。

得意分野

肺癌の集学的治療（呼吸器外科、放射線科、化学療法部との連携による総合的治療）、呼吸器内視鏡診断、びまん性肺疾患の診断と治療、慢性閉塞性肺疾患の治療、肺感染症の診断と治療。

診療実績

2011年度の診療実績として、新規入院患者数は884人、外来患者延べ人数は18,004人、気管支鏡検査件数年間380例となります。



専門外来

毎日、呼吸器専門外来3診（1診は呼吸器初診外来）。禁煙外来（週1回、循環器内科、総合診療科との協同）を行っています。

先進医療・研究

肺癌化学療法の多施設共同臨床試験、抗癌剤副作用に関連する遺伝子検査、喀痰吸入誘発による各種呼吸器疾患の診断と病態研究、気管支鏡下超音波内視鏡検査、気管内悪性腫瘍に対するアルゴンプラズマ凝固術。

